

第 1 回会議の開催結果

1 議事要旨

宿泊税を導入することによって、何ができるようになるのか、どのようなところに使われるのか、メリットを明確にしなければ、宿泊者、事業者それぞれにとって主体的（積極的）になれないという意見が多かった。

県の宿泊税導入に関しては、宿泊者に納得していただける用途にしたほうがよい、市町村ごとに使い方をうまく分けていくほうがよいなどの意見もあったが、市、県の役割分担を明確にし、県は市町村でできないことを補完するべきだとの意見もあった。

また、南房総市全体の総合計画や総合戦略における観光のまちづくりの位置づけについての見取り図を作ることで、今何ができるのか何ができていないのか、何が課題でこれから何をやるべきなのか整理する必要があるとの意見があった。

2 各委員の意見

●宿泊税の用途について

- ・納税される方のメリットが一番。なぜお金を払わなければならないのか、それをどのように使用されるのかを伝えられるよう明確にする必要がある。
- ・用途に優先順位をつけていく必要がある。
- ・一次産業や資源保護のために宿泊税を活用することはセールスアピールにもなるのではないか。
- ・磯焼け対策やその勉強のための教材にも使っているという宣伝をすれば、ぜひ行ってみたいという学校も出てくるのではないか。
- ・2次交通対策は避けて通れない。
- ・キャッシュレスに対応してない店舗が多いため、導入する財源にする方法もある。
- ・年度ごとケースバイケースで用途を決めることも必要。

●課税要件について

- ・教育旅行では遠いところから来られているケースが多い。特に公立学校は予算が決められているため、宿泊税の 100 円、200 円によって来られないという可能性もある。

- ・民宿のような小規模な宿泊施設に対して軽減措置があってもいいのではないか。例えば教育旅行の場合、宿泊税の減免あるいは軽減措置を設ける方がいいのではないか。

●県の宿泊税導入について

- ・県と市の2階建ては反対。
- ・県との二重課税については、その方針はまず南房総市が明確にするべきで県がやるべきことは、市町村がやることを補完することだ。役割分担を明確にすればいろんな可能性も開かれると思う。
- ・県が先に導入すると南房総市の側からすれば、いろんな足かせになってしまう。
- ・県の宿泊税の用途は、自治体別に使い道をうまく示した方がいいのではないか。
- ・インバウンドについては単独ではなく、県が本腰を入れリムジンバスの運行をするなどしないと、2次交通が厳しいところに外国人は来ない。
- ・この検討委員会で用途をはっきり決め、県に提示できれば南房総市のアピールにもなる。

●データ分析の必要性

- ・南房総市で一番典型的な宿泊客はどのようなお客様なのか。具体的に数値、データを並べた方がよい。
- ・横軸にキャパシティ、縦軸に宿泊料金として宿ごとにプロットし、どんな分布になっているか確認したほうがよい。
- ・データに基づいてどう滞在していただくか、そのためには我々が何を持っているかという調査も全て必要になってくる。
- ・データ分析が必要だが莫大なコストがかかる。例えば夜の滞在時間が長いのはなぜかということに基づいたコンテンツの作成など。

●広域連携

- ・安房地域で足並みを揃えられないのか。
(1年前の市町への調査では意向はない。南房連では足並みを揃えようという意向。)
- ・南房総が先陣を切って宿泊税導入検討していく。近隣の館山市、鴨川市も追随して、南房総全域で宿泊税が取れる房総地域を愛する宿泊税であると思っているので追随してほしい。県だけに取られるわけにはいかない。

3 前回は踏まえ調査・資料作成した事項

●宿泊税の用途について

- 1 観光のまちづくりと地方創生を絡めた見取図（観光事業の位置づけ）の作成
- 2 市全体の観光施策の中で足りていない部分や課題は何か。
- 3 なぜ宿泊税が必要かのメリット、デメリットをそれぞれの立場（宿泊事業者、宿泊者、市民（一次産業事業者など））からまとめる。
- 4 宿泊税導入後、どういうことができるのか、何が変わっていくのか。
上記を踏まえ用途を明確にする。

●県の宿泊税導入について

- ・県の動向を調査する。

●データ分析の必要性

- ・先行自治体は規模が大きいため検討中の自治体で同規模のデータを集める。
- ・観光客用アンケートについても用途を明確に記載して調査する。

●広域連携

- ・安房地域の市町、観光協会に意向調査をする。